

## 令和 3 年度 認知症連携部会活動報告

### 認知症連携部会設置の目的

高齢者が「認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続できる」ことを支援するため、本市の現状把握や課題整理を行い、在宅医療・介護連携における課題解決のための仕組みや方法の検討と多職種・多機関の連携強化を図ることを目的とし、平成 29 年度に設置。

### 部会員

医師会、地域連携型認知症疾患医療センター、在宅介護・地域包括支援センター、基幹型地域包括支援センター、介護事業者（居宅介護支援・訪問介護・訪問看護・認知症対応型通所介護等）、地域支援課、高齢者支援課等、認知症高齢者及び家族を支援する機関から 18 名。

### これまでの活動内容

- ・ 設置初年度（平成 29 年度）は、認知症対応における医療・介護連携の重要性、課題の再認識と、連携に向けた両者間の意識共有やリアルタイムな関係性構築の必要性を確認した。
- ・ 平成 30 年度は、BPSD（行動・心理症状）が見られる高齢者に対する医療・介護連携チームによる支援手法である「認知症初期集中支援事業」の具体的事例を検証し、支援による成果と課題を整理。医療・介護連携による認知症高齢者支援の有効性を確認し、本人・家族への支援という視点に立った認知症の方への適時適切な支援体制の強化のため、支援事例を積み重ねブラッシュアップしていく必要があること、医療・介護連携による対応についてケアマネジャーや介護事業者等への周知の必要性があることを確認した。
- ・ 令和元年度は、「認知症初期集中支援事業」について介護事業者等へ周知することにより、同事業の普及啓発を図るとともに、認知症高齢者に対する医療・介護連携による取り組みの必要性を周知



することを目的とし、2 度にわたり当部会として研修会を開催（両日とも同内容）。市内を中心とする居宅介護支援事業所、通所介護事業者、訪問看護事業者、在宅介護・地域包括支援センター等から計 68 名の参加を得た。

研修会では、実際に初期集中支援チームに加わった関係者によるパネルディスカッションや参加者同士のグループワークを実施。紹介事例に対する感想、認知症高齢者の支援に関する様々な意見が参加者より寄せられた。

- ・ 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン（Zoom）により部会を開催。認知症初期集中支援事業 4 事例を対象とした事例研究を実施し、事前周知した事例毎の質問事項について、参加した全部会員が各々の職種、機関の特性や強みを踏まえた意見交換を行い、引き続き認知症初期集中支援事例を題材とした事例研究の実施と参加者の拡大、そのためのオンライン活用の促進が提案されたほか、他部会との連携も検討していくこととなった。



## 今年度の活動内容

### 第1回部会 令和3年6月29日(火) Zoomによるオンライン開催 出席者16名

- ・ 冒頭、「認知症支援における医療・介護連携上の課題や、課題解決のための取組み」について全部会員が発言し、「患者・家族支援のために各職種の長所をいかに効果的、効率的に生かすか」、「多職種研修の成果をどう広げるか」、「医療・介護間の適切な情報共有が課題」といった意見が寄せられた。
- ・ 続いて正副部長が再任された後、当部会の成り立ち、在宅医療・介護連携推進協議会における位置づけ、前年度の活動について説明の後、認知症疾患医療センターのあらまし、事業内容や役割などについて、資料を用いて説明が行われた。
- ・ 今年度もオンラインの活用を念頭に、認知症初期集中支援事業を題材とした事例研究を実施することとし、参加者拡大に向け多職種連携推進・研修部会との連携を図ることとなった。

### 第2回部会 令和3年11月25日(火) Zoomによるオンライン開催 出席者16名

- ・ 1月27日に多職種連携推進・研修部会との協同により開催することとなった研修会の概要について事務局より説明を行った。
- ・ 続いて各部会員より、仕事や趣味活動などを通じた認知症高齢者の在宅生活の支援などに関し、意見交換を行った。

### 認知症連携部会と多職種連携推進・研修部会の協同による研修会 令和4年1月27日(木) 参加者50名

- ・ 多職種連携推進・研修部会との協同により、認知症初期集中支援事業の実事例を用いた事例研究と、医療・介護双方の支援者によるグループワークを主とする研修会をオンラインにより開催した。
- ・ 事例研究では、全部会員に事例から浮き彫りとなった認知症高齢者の支援に関する様々な課題について意見を求めた。グループワークでは参加者を7グループに分け、「認知症支援において、医療と介護の双方は、何のために、どのような情報を必要としているか？」というテーマでグループワークを実施した。

### 第3回部会 令和4年3月10日(木) Zoomによるオンライン開催 出席者13名

- ・ 研修会アンケートの概要を説明。認知症初期集中支援事業の認知度は高く、また、事業対象となり得る事例の相談先は在支・包括とケアマネジャーが多かった。研修満足度は高かったが、時間の不足などグループワークに関する反響が大きかった（別紙「アンケート集計結果」参照。）。
- ・ 各部会員からは、多様な職種の取組みが分かりとても有意義であった、医師の先生と直接意見交換を行う機会は少ないため良い機会であった等の意見が多く、再度同様の場を設けることを希望する声も多く聞かれた。また、参加人数のさらなる拡大、ディスカッション（グループワーク）中心とした構成などへの意見もあった。
- ・ 次年度についても今年度と同様に研修会開催を希望する声が多く聞かれたため、来年度第1回の部会にて各部会員がテーマを持ち寄り、現場の課題に即した課題を抽出し、テーマを中心とした研修会の開催を念頭に、開催時間や形態などを検討していくことが提案された。